

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300254		
法人名	有限会社 ウエルサポート		
事業所名	グループホーム 第二わらび苑	ユニット名	I
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西濱郷1622番地63		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年12月5日	評価確定日	平成29年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、小規模団地の中にあり、小さい子供達が多く賑やかな団地です。それぞれが日頃から挨拶をかわしたりする間柄です。このような地域の中で入居者と職員は日々暮らしています。当ホームの経営者が地域出身者であり、系列ホームと一緒に認知症の人々やその家族を支えるための活動を関係機関と協働して活動しています。常に地域の課題に向き合い、当ホームで出来ることは積極的に関わって、その課題克服に向けた活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム「第二わらび苑」”は2つのユニットがあり、それぞれの個性を活かした取り組みを続けている。29年度は業務改善に取り組み、ケア方法などの見直しが行われた。職員も次第に現在のケア方法に慣れてこられ、日常の中で「ゆとり」の時間ができ、ご利用者の思いを聴いたり、一緒に楽しむ時間が増えている。職員の意見で内部研修も再開し、今後も毎月開催される予定である。理事長が大切にされている「職員の関心を広げ、職員の視点を広げていく」取り組みも加速している。「自立支援」の視点も素晴らしく、「できること」「できそうなこと」を丁寧に把握し、日課表も作成されている。これまでの生活歴や暮らし方、生活環境を聴き取り、センター方式やコミュニケーション記録簿等に残し、介護計画に活かされている。29年度は「園芸部」もでき、今後も職員とご利用者が一緒に園芸を楽しむ機会が増えていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」の理念を管理者・職員は理解し、認知症の方が安心して暮らせるように実践している。	29年度はケア方法や業務内容の改善を行い、「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」という理念の実践を目指した取り組みが行われた。ご利用者に寄り添う時間を増やし、「ゆっくり」できる時間を作られたり、「たのしく」過ごすための企画も増やしてこられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り、敬老会、マンドリンクラブ、保育園児や学童クラブの子供達のら来苑など地域の方々と幅広く日常的に交流している。	敬老会ではボランティアの方が踊り等をして下さった。お寺の花祭りに参加して甘茶を飲まれたり、お寺の学童クラブの子ども達や保育園児の訪問もあり、お遊戯の披露や肩たたきをして下さり、楽しいひと時になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までの実践から得た知識を認知症の方が住みなれた地域で暮らし続けられるよう地域に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践から得た知識を認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。	資料には行事の写真を貼り、日頃の取り組みをわかりやすく紹介している。新年会も行われ、ご利用者も一緒に楽しいひと時を過ごされている。会議では防火訓練の報告や自然災害等の検討と共に、西海市に不足しているものを情報交換し、医療連携の在り方なども検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が市の高齢者福祉等に関する各種委員を勤めており、日頃から情報交換ができる関係を構築している。	理事長は認知症地域支援体制構築等推進協議会のアドバイザーである。地域ケア会議に参加し、介護保険事業計画策定委員会の会長等も努めており、介護職員の人員確保に向けた検討も続けている。管理者代行等も市を訪問し、入退居情報や取り組みを報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者も職員も身体拘束の弊害を理解しており、如何なる場合でも身体拘束をしないケアを実践している。	「身体拘束は虐待。例外はない」という理事長の考えを職員は理解している。日々の職員の優しい対応で穏やかに過ごされている方が多く、夜も安眠されている。家族にもホームの方針とリスクを説明し、対応方法の話し合いが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、職場内外で学ぶ機会があり、虐待が見逃されないよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っており、支援が必要な方には積極的に活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書や重要事項説明書は本人や家族がわかりやすいように説明し、理解・納得して頂くようにしている。納得してから契約の締結をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族などから不安や疑問点、また、意見や要望などが聞けるような関係を作り、運営に反映できるものは反映させている。	面会時や電話で要望を伺っている。遠方の方の面会時には駅までの送迎を行う時もあり、車中で色々な思いを伺っている。ホームに宿泊(4~5日)される方もおられ、ケアのお手伝いをして下さっている。夏祭りの要望も頂き、今後も開催時期や行事内容を楽しく検討する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会及び日頃の会話などで出された職員の意見や提案で運営に反映できるものは反映させるようにしている。	両ユニットの個性もあり、職員の良さを引き出すように努めている。職員の意見で内部研修(センター方式、献立、寄せ植え作りなど)も再開された。「自分の関心が広がれば、更なる視点の広がりになる」と理事長は考えており、今後も職員の要望や視点を活かした研修を企画予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験年数に応じた研修会や個々の努力や勤務状況を把握し、職員がやりがいを持って働けるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に応じた検視誘拐への参加を促し、職員個々が働きながら学び資質の向上が図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の福祉施設連絡協議会に加盟しており、同業者や他の福祉施設職員との交流の場が確保されており研修会等を通じてサービスの質の向上が図れる取り組みをしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人、家族、関係者等から本人が困っていること、不安なこと等を聴き取り、安心して暮らせるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族が困っていること、不安なことを聴き取り、家族が安心できるような良い関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いま、本人や家族が必要としているサービスを見極め、その提供・対応に向けて努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす人生の先輩として常に学ぶ姿勢を持ち、互いに楽しい生活ができるような関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の暮らしを報告したりして家族と本人の関係を大切にしながら、共に本人を支える関係づくりを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所を大切に、その関係が途切れないよう家族と協力して支援に努めている。	センター方式を利用し、生活歴(馴染みの人や馴染みの場所の把握等)の把握を続けている。近所の方の面会もあり、居室でゆっくり過ごせるように配慮している。花祭り等の地域行事の時や病院の待合室で馴染みの方と交流したり、家族と馴染みの美容室に行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく過ごせるよう、職員が仲介役となり、入居者同士が関われる場面を作りながら支え合えるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても今までの関係が途絶えないように必要に応じて相談に乗ったりして支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーション記録簿等から一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は利用者本位で検討している。	ご利用者に寄り添う時間を増やしてこられた。センター方式やアセスメントシート、個人記録やコミュニケーション記録も活用し、「散歩に行きたい」「家に行きたい」等の要望や家族への思い、ご自分の身体への思い等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方、生活環境を家族から聴き取り、入居後は家族や日々の会話、コミュニケーション記録簿を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごし方、心身状態や有する能力等の現状を日誌等で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日頃の関わりや家族の思い、ケアのあり方について本人、家族、必要な関係者と話し合い、本人を中心に据えた現状に即した介護計画を作成している。	センター方式(暮らしの情報シート等)を活用し、「できること」「わかること」等を把握している。利用者ADL等調査票も職員個々に記入し、職員間で検討している。介護計画(3表も)、手順書(職員作成)を作成し、食器拭き等の生活リハビリも盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌、夜勤日誌、コミュニケーション記録簿等で本人の日々の状態を全職員が共有しながら、モニタリングを実施して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が望むサービス内容について職員全員で話し合い、柔軟な支援やサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な場面で利用者が安心して暮らせるように地域資源を活用して、本人の力が発揮できるような場面づくりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「かかりつけ医」で受診出来るようにしており、通院介助を行って医師との連携を図っている。受診結果は家族にその都度報告している。	協力医はいつでも相談に応じて下さり、受診結果も家族と共有している。病気や内服等の勉強会も行われ、職員も小さな変化に気づき、早期受診に繋がっている。行動障害が見られる時も理事長からのアドバイスがあり、真の原因を見つめると共に、専門医の受診に繋げる事ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わり状況や気づき等の情報を提供して、本人が適切に受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	リロケーションダメージを防ぐため病院関係者と情報交換しながら早期に退院できるよう関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、医師、家族等と話し合い、事業所が「できること」「できないこと」を確認し合って「ターミナルケア指針」にそって共有を図って支援している。	24時間の医療連携が困難であり、入居時に「終末期ケアは行ってない」事を伝えている。ご本人と家族に意向を確認し、「できるだけ長くホームで」「葬儀の段取りまで」等の希望を伺っており、今後もセンター方式に記入する予定である。特養等の申し込み支援も行い、病院に移転される“ぎりぎり”まで、誠心誠意のケアをさせて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	利用者の急変や自己発生時に備え、普段から状況把握と体調の変化に気づき、初期対応も的確に行える実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に対す初期対応や避難訓練は定期的実施しており、災害発生時も含めて地域との協力関係を構築している。火災を未然に防ぐ対策も整えています。	運営推進会議で防災対策を検討している。年2回、系列ホームと合同で防火訓練(夜間想定)をしている。日々の防災チェックを続けると共に、各機関(西海市、消防署、消防団、西海市社会福祉協議会、西海市福祉施設連絡協議会、地域住民等)との協力体制もある。災害に備えてカセットコンロ、米、缶詰は常時保管している。	自然災害に対する計画もできており、地元の婦人部も炊き出し訓練等をされている。今後も各種自然災害時の避難先、避難方法、備蓄などを西海市と協議し、西海市全体で実効性のある訓練の実施に繋がっていければと考えている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誘導時の声かけ、誇りやプライバシーを大切にされた対応をしている。	優しい職員ばかりで、日頃から言葉遣いに配慮している。年長者としての敬意を持って接し、ご利用者の意思決定を大切にされた声かけをしている。「個人情報取扱に関する規程」を策定し、職場内研修でSNSを含めた個人情報管理、情報漏洩対策を周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望する思いを表出できるように、その言葉や表情から読み取り、ゆっくり待つて自己決定を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々のその日の体調や気持を大切に、希望にそった過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援し、服装の乱れがあった場合はさりげなく支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の新鮮な食材を使い、食材を話題にしながら、皮をむいたりすることで本人が力を発揮できるようにしている。また、食器洗いや後片づけなども手伝ってもらっている。	理事長が作られる野菜が美味しく、3食職員が旬の美味しい料理を作られている。彩り、盛り付け等にも気を配り、「ごちそうね」「美味しいね」と皆様から好評である。ご利用者も皮むきやテーブル拭きや配膳、下膳、食器拭き等をして下さっている。	29年度は園芸部ができ、職員主体でホームの庭の手入れをされている。今後もホーム周辺に畑を増やし、ご利用者が車いすで気軽に畑に行ける環境作りを検討していく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量を把握しておりカロリー計算も定期的に行い、バランスの良い食事が提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じて口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持を心掛けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をとって、個々の排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけ誘導を行うことでトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄が自立し、下着を着用する方もおられる。パッドの大きさも個別に検討し、個別のトイレ誘導を行う事で排泄の失敗が減り、紙パンツから下着に変更できた方もおられる。自立支援の視点で“待つケア”も続けており、夜は安眠を重視しながら、必要に応じてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や適度な運動、水分補給により自然排便を促すよう心がけ、排泄記録簿からも必要に応じた誘導に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきになっているが希望があれば毎日入浴できるよう対応し、季節感を感じられるようゆず湯や菖蒲湯などを行って入浴が楽しめるよう支援している。	湯船に浸かり、職員との会話を楽しませている。滑り止めマットを活用し、手すりも増やされている。体調に応じて2人介助が行われ、できる所はご自分で洗われている。シャワー浴の方も足浴を同時に行い、保温に留意している。起床時と寝る前は陰部清拭が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、生活習慣に応じて休息したり、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をひとりひとり整理し、目的、副作用、用法、用量について全職員が理解している。服薬時は手渡しして確認を行い、間違いがないかを常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器を洗う方、拭く方、洗濯物をたたまれる方、「それは私がします」「これはさせて下さい」と自ら言って来られたり、歌ったり、ゲームをしたりして、役立つ場面や楽しい場面を作ったりして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気とその日の体調を見て、ドライブや散歩にでかけ、敬老祝賀会は普段行かない場所で家族と共にたのしめるよう支援したり、ミニミニ運動会を行って賑やかなひと時が過ごせるように支援している。	天気の良い日は外に椅子を出して、お茶を楽しまれたり、外のベンチで体操をする時もある。ホームの庭の“バラ園”も好評で、四季折々のお花を楽しませている。季節の花見(桜・紫陽花・秋桜など)のドライブもされており、「綺麗かね」等の声が聞かれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っているとお心される方もおり、個々に応じた支援をしながら、お金を持っている方は家族と一緒に金額を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を受けたり、かけたりする事は、本人の希望によりその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が不快感を与えないよう配慮し、台所の音や掃除機の音、食事のにおい等の生活感が感じられ、また、季節の花々を玄関やホールに飾ったりして季節を感じながら、心地よく過ごせる環境整備を工夫している。	ご利用者と職員と一緒に草取りや花の水やりをされている。四季折々の花が咲き、家族や地域の方からも好評である。ホーム内は日々の掃除が丁寧に行われ、換気や温度管理も続けている。リビングも明るく、台所と一体化して広いスペースであり、ご利用者も一緒に洗濯物たたみやモップ掛け、食器拭き等をして下さっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一人になりたい時は一人になれ、気の合った人同士で語らう場所の確保もされており、それぞれ居心地よく過ごされるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の居室の食う葉の入れ替え、部屋には気に入った写真やカレンダーを貼り、使い慣れた物も持ち込まれ家族が来られてもゆっくりくつろげる空間になるような工夫をしている。	居室からバラの花等を眺める事ができる。ご本人が安心できるように家族の写真を貼ったり、ソファや時計、ぬいぐるみ、化粧道具を持ち込まれている。お位牌を置かれている方もおられ、ご本人がお水をお供えし、お参りされている。居室で花札を楽しまれる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	暮らしの情報シートで「できること」「わかること」を把握し、廊下やホールには余計な物をおかないで安全面への配慮をし、自立した生活が送れるよう工夫している。		